

第2回総合戦略策定検討委員会

議事要旨

日時：令和2年9月17日（木）
午後6時30分～8時40分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
 - ①総合戦略の基本目標・基本方針について
- 4 その他
 - ①人口ビジョンについて
 - ②第3回昭島市総合戦略策定検討委員会について
- 5 閉会

配付資料

【配付資料】

- 1 国と昭島市の新旧基本目標
- 2 昭島市総合戦略 4つの基本目標と基本的方向

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）

副委員長・・・大塚一彦（立川公共職業安定所）

委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、北原裕貴（多摩信用金庫）、齋藤久未（株式会社ジェイコム東京 多摩局）、樽松洋（公募市民）、冨名則之（公募市民）、石川くに子（公募市民）、佐藤良絵（公募市民）

事務局・・・萩原政策担当部長、青柳企画政策課長、滝瀬総合基本計画担当課長、萩原企画調整担当係長、森田企画調整担当係長、田中主事

1 開会

事務局・・・ 本日は、お忙しいところ、第2回目の総合戦略策定検討委員会にお集まりいただきありがとうございます。皆さんお揃いになりましたので、委員長よろしく願いいたします。

2 委員長あいさつ

委員長・・・ 総合戦略策定委員会2回目ということで、今日、初めての方もいらっしゃると思いますので、自己紹介をお願いできればと思います。

○委員自己紹介

委員長・・・ よろしく願いいたします。

時間も、限られていますので、早速進行していきたいと思います。

事務局より、本日の資料の説明をお願いします。

事務局・・・ 資料の説明をさせていただく前に、2点ほど、ご報告を含めてお話をさせていただきます。まず、1点目が前回の委員会でお話をさせていただいたところですが、次期総合戦略におきまして、基本目標、基本方針につきましては、次期の総合基本計画の中に内包する形で策定していくお話をさせていただきました。次期の総合基本計画につきましては、今般の新型コロナウイルス感染症の影響等で、審議会等がなかなか開催することが出来ず審議の進行が少し遅れている関係もございまして、また、今後の財政状況やコロナの状況がどうなっていくか、なかなか見通しが出来ないところを踏まえ、1年間の延伸をさせていただく方向でお伝えをさせていただいたところでございます。

こちらにつきましては、9月8日に議会にその旨、報告をさせていただいて1年間延伸することを了承いただいております。これに付随をいたしまして、次期の総合戦略につきましても、第1回目でご説明をさせていただいたとおり、さらに1年間延伸する中で策定作業を進めていただきたいと思いますと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2点目が、これから資料の説明をさせていただくのですが、前段で申し訳ありませんが、資料1、2につきましては、本日机上に最新版の資料をカラーで置かせていただきました。先週、皆様の方に郵送させていただいているところでございますが、並行して庁内の検討委員会を進めておりまして、庁内検討委員会の意見集約が若干遅れてしまい反映できなかったところがございます。そちらの庁内検討委員会の意見等も踏まえまして大変恐縮ですが、本日机上に資料1及び2について、ご報告をさせていただきたいと思っております。

変更した部分につきましては、赤字になっておりますので、そちらも含めて、説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

事務局・・・ 配付した資料につきましては、本日の次第と、【資料1】の「国と昭島市の新旧基本目標」と、【資料2】「昭島市総合戦略 4つの基本目標と基本的方向」と記載されている合計3点になります。

また、「第1回委員会の議事要旨（案）」につきましては、委員の皆様事前送付させていただきました。

ご覧いただいているかと思いますが、何かお気づきの点があれば、お申し付けいただければと思います。なお、13ページのご発言いただいた、3番目の方のお名前が「水野委員」となっていた部分が「勝見委員」でありましたので、お詫び申し上げまして、訂正をさせていただきました。なお、修正したものにつきましては、後日送付をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

3 議題

(1) 総合戦略の基本目標・基本方針について

委員長・・・ それでは、今日の議題ですが、議題①総合戦略の基本目標・基本方針について、資料に基づいて、事務局より説明をお願いします。

事務局・・・ それでは、総合戦略基本目標と基本方針について、説明させていただきます。本日配付しました資料1の「国と昭島市の新旧基本目標」をご用意ください。

こちらの、資料1につきましては、国の総合戦略における基本目標と、昭島市の総合戦略における基本目標を示しています。上半分が国の基本目標、下半分が昭島市の基本目標となっており、左側が第一期の基本目標、右側が第二期の基本目標となっています。右上、国の第二期総合戦略につきましては、令和元年12月にすでに策定されており、右下、赤の点線で囲まれた部分については、今回策定する昭島市の第二期総合戦略の基本目標の「案」となっています。赤く書かれている部分が、今回、昭島市の総合戦略策定庁内検討委員会後に、修正した内容となっております。

市町村が策定する地方版総合戦略につきましては、国や都道府県の総合戦略を勘案し、その市町村の実情に応じて策定することが、努力義務となっておりますが、左半分の国と市の目標を見比べていただきますと、おわかりのとおり、昭島市の第一期の基本目標については、基本的に国の基本目標に沿う形で策定されておりました。

国の新しい基本目標につきましては、旧目標の内容を踏襲して策定されており、内容的には基本的に変更はありませんが、基本目標間での組み換えや文言の整理が行われております。

また、基本目標のほかに、それらを横断する形で2つの目標が追加されております。

「横断的目標の1 多様な人材の活躍を推進する」では、1億総活躍社会の実現、「横断的目標の2 新しい時代の流れを力にする」では、Society5.0の推進、SDGsの実現などが想定されています。

これらを受けて、昭島市における新目標の案ですが、国と同様、内容的には基本的に変更はありませんが、市の実情に沿う形で文言の整理を行いました。

基本目標1「誰もが安心して働ける環境を整える」という文言は、当初、「働く環境を整え、安心して働けるようにする」という文言でしたが、先日開催された庁内の検討委員会で意見をいただき、修正した内容となっています。国の「稼ぐ地域」という内容よりも、より多くの人に働いてほしい、女性に正規雇用として働いてもらいたい、全ての人に安心して働いてほしい、という視点に重点を置き、そのためには、働ける環境整備が必要であるという観点から、このような文言に整理しました。

基本目標2「昭島へ新しいひとの流れをつくる」という文言は、前回の昭島市の目標と同内容であります。総合戦略は、先ほども申し上げましたが、全国の市町村で策定の努力義務があります。したがって、それぞれの自治体で実情に合わせて策定していくこととなりますと、国の新目標「地方とのつながりを築き」という内容につきましては、東京都に位置する昭島では、あまり馴染むものではない、と判断しました。

基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という文言は、国の新目標と同内容となっており、前回の目標の「若い世代」という部分を、国も昭島市も除いており、対象範囲を広げた表現となっております。

基本目標4「魅力的で安心して暮らせるまちをつくる」という文言は、当初「安心して暮らせる魅力的なまちをつくる」という文言でしたが、こちらも、先日開催された庁内の検討委員会により、修正した内容となっています。国の

新目標「ひとが集う」という部分は、国の新観点において、「稼げる地域をつくり、賃金ややりがいの面で魅力的なしごとの場を地方に創出する」という内容につきましては、例えば企業誘致などを行い、雇用環境を整備するといったことは、地方の自治体と比較しても、既に土地の確保が難しい昭島市では、やはり馴染まないと判断し、記載の文言に整理いたしました。

また、横断的な目標につきましては、国と同様、目標を設定しております。

横断的目標では国の2つの目標に追加して、「昭島の強み」とも言える、「水」について記載をし、「あきしまの水の恵みを強みに変える」として、「昭島らしさ」を打ち出す戦略とすることを案といたしました。

ここまでが、総合戦略の基本目標の説明になりまして、次の基本方針についてです。

それでは、次に、本日お配りした資料2の「昭島市総合戦略 4つの基本目標と基本的方向」をご用意ください。

4つの基本目標と基本的方向につきましては、まずは、資料の構成と見方を説明したいと思います。

こちら、文字が赤い部分につきましては、庁内の検討委員会でのご意見を受け、事務局で検討を行い、修正した内容となっております。

各色の枠内に基本目標があり、これを達成するために、基本的方向を示しています。基本的方向は、現状・課題、キーワードなどをもとに内容を記載しています。

現状・課題につきましては、人口ビジョン、結婚・出産・子育てに関する意識調査、各事業のKPI進捗状況調査の資料などを参考にしています。

キーワードにつきましては、下線が引かれているものが、今回新規のキーワードであり、それ以外は、前回のキーワードとなっております。

次に、各基本目標につきまして、細かく書かれておりますが、概略を説明いたします。

「基本目標1」につきまして、現状・課題では、昭島市においては、生産年齢人口が減少しており、就業者数の減少が見込まれています。しかし、就業率を上昇させることで、就業者数の減少速度を緩和できるため、人と仕事を繋げ、働きやすい環境整備を進める必要があると考えられます。特に、女性や高齢者の就労支援・施策は、今後重要な課題と考えております。

キーワードとしては、雇用を増やす、地元就労を増やす、女性や高齢者の就業率を上げるといった、就労増に関する視点に立ったキーワードや、テレワーク、ワーク・ライフ・バランス、多様な働き方などといった、働き方に関するキーワードが記載されています。

基本的方向では、より多くの人々に働けるような、多様な働き方に対応した環境整備、職住近接や労働時間短縮を図り、特に子育て期の女性や高齢者が働きやすい環境整備に着目した内容となっております。

「基本目標2」につきましては、現状・課題では、滞在人口としては、平日都内から来る人、すなわち就労で昭島へ来ている人のみが増加傾向であり、それ以外の休日の都内・都外、平日の都外から来る人数は近年減少傾向となっております。よって、就労以外での、昭島への来訪者の増加が課題であると考えます。

キーワードとしては、人口ビジョンに基づき、人の入りと出といった人の動きに着目したキーワードとなっています。また、昭島ブランドや昭島の魅力の構築や発信、伝統文化といった昭島独自・昭島ならではのキーワードが記載されています。

基本的方向では、昭島を「アピール」していく視点が、盛り込まれております。昭島の魅力を発信し、人を呼び込む。企業間連携を推進し、交流人口を増やし、定住へとつなげるという視点に着目した内容となっています。

「基本目標3」につきまして、現状・課題では、結婚・出産・子育てに関する意識調査の結果から、未婚・晩婚化が進む中で、結婚の意向がある人が増加傾向にあります。しかし、出会いの場が少ないなどの理由により、結婚した年齢が希望より遅いというのが現状であります。また、結婚後の出産、子育てと、ライフスタイルの変化に応じたニーズに対応していく環境整備が課題と考えられます。

キーワードとしては、結婚、出産、子育てに関するキーワードが中心となっているほか、働き方改革や職住近接といった、働きながら子育てするといった視点に関するキーワードも記載されています。

基本的方向では、結婚、出産、子育てという視点に着目した内容となっています。基本目標1にもありました女性の就業率を増やすにあたっても、やはり安心して子育てできる環境、仕事と育児の両立を図れる環境作りが重要であるという視点に着目しています。

「基本目標4」につきまして、現状・課題では、時代の変化に伴い、生活スタイルやそれぞれの価値観が多様化しています。安全で利便性に富んだ都市基盤と、自然環境が調和する、暮らしやすいまちづくりを継続しつつ、かつ「楽しいまち」をつくるのが課題です。

キーワードとしては、自然や住環境の視点に基づいたキーワードや災害に関するキーワードが記載されています。

基本的方向では、誰もが生きがいもち、安心して暮らせるまちでありつつ、多様性や意外性といった「楽しさ」を踏まえ、魅力的なまちづくりを進めるという視点に着目した内容となっています。

このような4つの基本目標の他にも、特に、「台風・ゲリラ豪雨による水害や、今般の新型コロナウイルスのようなウイルス災害等に強いまちづくり」、「昭島市の魅力である水と緑を活かし、また未来へ引き継ぐ」、「住みやすく働きやすい職住近接」、「企業連携と中小規模事業者支援」などについては、今後視野に入れて、戦略事業を検討していく必要があるかと考えられます。

最後に、資料に記載してある内容につきましては、現段階のものとなっております。今後、本委員会や庁内の検討委員会で出されたご意見や、現行の推進計画の検証結果などを踏まえて、整理し作成していく予定となっております。

以上が、総合戦略の基本目標・基本方針についての説明になります。

委員長・・・ ありがとうございます。

今、説明をいただきましたが、まずは、聞いてわからないところの質問を、文言や内容についてお伺いできればと思います。

水野委員・・・ 基本目標1を見ていて、現状と課題が並列していて、同じ中に記載をされている。私は、この会議の中で、市民の人が見たらどう思うかと言う目線で見させて

いただいておりますが、現状があつて課題がこうあると記載した方が、市民の人はわかりやすいのではないかと思います。

生産年齢人口が減少しているから、労働力の確保が課題になる。現状を整理して、何が課題なのかを２段書きで表記された方が良いのではと思いました。

水野委員・・・ この資料は、総合戦略の冊子に入る資料になるのですか。

事務局・・・ 現状と課題につきましては、このまま総合戦略の本体に入ってはいきませんが、審議いただくために委員会上での現状と課題について、示させていただく形となっています。委員がおっしゃるとおり、現状と課題が混ざっているところがありますので、整理できるのは、今後、整理して改めてお示しをさせていただきたいと思っております。

北原委員・・・ 国の方では、SDGs が前提で話が進んでいる部分がありますが、昭島市の場合には、SDGs をどのような位置づけで整理をされるのでしょうか。

事務局・・・ 次期総合基本計画を策定していく中で、SDGs のアイコンを全体計画に付けるような形ができればと事務局では考えております。

基本目標などを含めて、総合基本計画を策定しますので、施策のページを見ると、そのページに SDGs に関わる施策が整理されているイメージで検討を進めています。

委員長・・・ 今回、はじめて出来た横断的な目標は、どのように考えれば良いのでしょうか。

事務局・・・ 基本目標につきましては、国においても４つに分類しておりまして、昭島市の新たな案につきましても、４つ区分ごとに分割して設定をして進めさせていただいております。

そこに、横断的な目標ということで、国は２つ、市は３つ記載をしています。

この視点に立って、今後、目標の下に具体的な施策展開が、事業がぶら下がって来るわけですが、その事業を検討していく中で、その事業の中に横断的な目標である「多様な人材の活用」、「新たな時代に沿った形での事業展開」を、それぞれの目標の中で打ち出していく必要があると思っております。

あわせて、市の方は、本市の宝であります「深層地下水 100%の水」の部分について、少し横断的に触れられるものは触れていきたいと考えているところです。

委員長・・・ そう考えると、目標がプラスされるよりは、基本目標４つに繋がりながら、ある程度、絞り込んだ目標になっているということで、資料２のところにキャラクターたちのセリフがありますが、横断的な目標をイメージして書かれているのかなと思います。水という要素を、それぞれの目標と絡ませていると思うのですが、そういう理解でよろしいですか。

事務局・・・ 委員長がおっしゃるとおり、それぞれの目標ごとに事業展開を紐づけられる形で策定していきたいと考えています。

富名委員・・・ 前回の基本目標を踏襲されている中で、基本的な方向も内容は一緒なのでしょう
うか。違う点があれば教えていただきたい。

事務局・・・ 基本的な方向につきましては、大きくは変わっておりません。しかしながら、
5年前と現状で時点が変わっておりますので、時点の変化を踏まえて、今の時代に
合った形に整理をさせていただいております。

基本的な方向の一番下の点に、基本目標1では「働いて楽しいまち」、2では
「訪れてみたいまち」、3では「子育てして楽しいまち」ですとか、それぞれ楽し
いまちを目指すという基本的な方向はあります。概念としては、これまでも持つ
ていたのですが、このあたりは表記をする中で打ち出していければと思っており
ます。

富名委員・・・ 時代背景を踏まえて、環境とか IT とか変わってきていることを踏まえると基
本的な方向も、それに沿ったものを打ち出していけるような、方向のキーワード
がどこかにあるのでしょうか。

事務局・・・ 基本目標4つは、前回の人口ビジョンでお話した人口が減少していくと地域
経済に与える影響とか、働き方など、自治体運営に与える影響が、どのような部
分で課題があるのか、それを克服していくために策定されていく戦略であって、
大きな課題解決に向けて、どのようなアプローチをしていくのかが位置付けられ
ているのが4つの目標になります。

5年前と現時点で、データ分析等からは、あまり傾向は変わらないということ
で、しばらく長期的な視点をもって取り組んでいかななくてはならないというのが
基本目標の4つにあって、国の目標が変わっていないのも、そういったところ
にあるのかなと思います。

今、おっしゃられたように新型コロナウイルスの影響等で昨年と今年では働き
方も変わってきていると、IT 環境も整備していかなければいけないと、スマート
シティのデジタル化も取り組んでいかなければならないのは市としても考えて
いるところです。

市の事務局案として、意見を言うていただくための案として出していますので、
こういった視点も必要ではないかというところがあれば、キーワード、方向性
については委員会の意見を踏まえて位置付けていきたいと考えています。

樽松委員・・・ 基本的方向で、法の整備などに触れる必要があるのではないのでしょうか。

委員長・・・ 国として、法整備などを含めて考えている部分はあると思いますが、昭島市の
総合戦略として、昭島市で出来ること、やるべきことを考えていく方が、国の大
きな方針で国がやるべきことがあり、昭島は昭島でやるべきことが、どのような
方向性で、具体的に何をやっていくか考えていくのが総合戦略の中身になると思
います。

委員長・・・ 事務局からも説明がありましたが、皆さんにご意見をいただきたいのが、4つ
の基本目標は、国の方向性を踏襲して設定をしていますので、全く違うものに変
えることは戦略上あまりつながらないと思いますが、基本的方向の部分が非常に
大事で、基本的方向にどのような要素を入れていくか、皆さんの普段の生活の中

で感じている、仕事をしている中で感じている部分を入れていければ、それを考えるには現状と課題を理解しなければいけないので、この後、基本的方向について、コロナ禍になってからも含めて、ご意見をいただければと思います。

委員長・・・ それでは、一つ一つ見ていきたいと思いますので、まず基本目標1「誰もが安心して働ける環境を整える」の基本的方向について、ご意見をいただければと思います。

水野委員・・・ 女性の正規雇用率がありますが、好んで非正規雇用の道を選んでいる方もいらっしゃるのではないかと、単純に正規雇用を増やすだけが良いのかと疑問に思いました。

委員長・・・ 大塚委員いかがですか。

大塚委員・・・ 小さいお子さんがいたり、主婦の方がなかなか正規雇用の時間の枠組みの中で、正規雇用を希望されるのか、働き方としては、時間が柔軟な対応のできるパートなどの形態を望む状況にはあります。
正規雇用率が、女性と限定されると表現的には厳しいものがあるのかなと考えます。

委員長・・・ 女性の皆さんはいかがですか。

佐藤委員・・・ このところ面接をしていて、週2、3日とか、4時まで働きたい方などいらっしゃると思いますので、正規雇用だけというわけではないと感じました。

委員長・・・ 石川委員いかがですか。

石川委員・・・ 子育て応援をしているので、子育てをしている方がいらっしゃるんですが、コロナで、お父さんがテレワークになって、保育園の送り迎えをお願いできるので、収入も減ったので、もう少し収入を増やしたい、だけど正規までとはいかず、少し家計の補填をする形を求めている方が多いかなと思います。

大塚委員・・・ 国の施策としては、正社員化に重きを置いている部分があります。ですが、主婦の方や子育て中の方が正規雇用というのは、現状では難しいところがありまして、正社員化としての数字はなかなか伸びていないのが現状で、正規雇用率の部分でいうと、基本的な方針で推進していくのは良いと思いますが、女性という文言が入ると、厳しいものがあるのかなと感じます。

委員長・・・ 齋藤委員はいかがですか。

齋藤委員・・・ 水野委員がおっしゃるとおり、選んで非正規雇用で働いている方もいらっしゃいます。ただ、正社員の中でも、子育てができるように会社の方が環境を整えて、子育て中の人はフレックスで、コアタイムを決めて動ける仕組みで、正社員で子育てをしている人もいます。

しかし、出来る会社と出来ない会社があると思うので、市の目標としては、ど

のような文言が良いのか、難しいなと思いました。

委員長・・・ 正規雇用と言ってしまうと、この先、施策が出来上がって、KPI の指標を設定するときに、正規雇用の言葉が入っていると、正規雇用率が達成の指標になるわけで、それだけを見て、出来たとか出来ないとなつがってしまうという意味では、どうなのかなと思います。

皆さん事情があって、それに合った働き方がしたいのであって、そこには正規雇用、非正規雇用の違いが無いのかもしれませんが、齋藤委員がおっしゃられたとおり、環境が無く仕方なく非正規で働いているのかもしれない、当然、正規雇用の方が給料が良かったり、待遇も違いますから。

北原委員どうですか、男性でも、バリバリ働きたいという人だけではないですよ。

北原委員・・・ 今は、手に職というか、自分のノウハウをシェアするようなサービスも世の中にたくさんあるので、正職にしばられる考え方は、時代と共に変わっているのかなと思います。

委員長・・・ 富名委員はいかがですか。コロナ禍でご自身の働き方などはどうですか。

富名委員・・・ オンラインを推奨されているので、そこは楽だなと思います。

富名委員・・・ 基本的な方向で書かれている4つのものは良いなと思いますが、正規、非正規はありますが、ジョブマッチの事もあります。ここで重要なのは、都内の大企業であればルールに合わせてやっていけるとと思いますが、市のレベルで考えていくと、市内の企業にこのようなことを働き掛けていくことが現実的に出来るのか、強制力があるのか、市内の企業は対応しないのではないかと、方向性は良くても、方向自体が無理があるのかなと、評価で返ってきたときに実現できていないのではないかと感じました。

委員長・・・ 市から要請があったときに、いかがですか。

北原委員・・・ 業種によると思います。銀行の窓口を閉めるとなると、それは出来ないのです。職種によって、対応は出来る範囲になると思います。

水野委員・・・ コロナ禍に限らず、市内市外問わず企業は会社を守るために必死なわけです。その中で、どこまで市の働きかけに協力できるかは、いろいろと課題はあると思います。ただ、市内の企業で、特に大手、中堅の企業のお話を聞くと、市民や行政との関わりを持って、協力できることはしていきたいと、そういう声をいくつかの企業からは聞いています。

富名委員・・・ 市として、多少のお金を補助するなどで、企業として協力するとかあるのでしょうか。

樽松委員・・・ 地価の高騰などで、市内の企業が地方に移転する傾向にあったように感じますが、どうでしょうか。

水野委員・・・ 商工会で認識している限りでは、大手、中堅の企業が移動する認識はないです。ただ、小規模事業者については、コロナ禍で、今まで存続するか迷っていた事業者が、この機会に廃業をしようという事業者が増えているのは、残念ながら現状としてあります。

富名委員のおっしゃられた補助については、市内の大手企業は、社会的責任として、自分たちに何ができるのかというところがありますので、市からの補助金とかは念頭にないとの認識でいます。

ただ、コミュニケーションを、一昨年にあった昭島市と企業との対談のような機会をこれからも継続して持っていただきたいというお話はあります。

事務局・・・ 水野委員がおっしゃられたとおり、昭島市内のものづくり企業とか大手企業におきましては、昭島市から離れていく傾向は近年は無いと思っております。

一昨年、昭島企業サミットにおきましても、地域貢献という視点で企業は考えていて、行政とのつながりを求めている部分があるのかなと認識はしています。

企業サミットにおきましても、毎年とはいきませんが、一定の期間を置きながら継続していくことになっていますが、コロナの感染拡大によって開催できていない状況にあります。昭島市としてもまちづくりの視点におきましては、大手企業との連携という部分は必要になってくると考えています。

昭島市の地域性としては、ものづくりの全国的にも力のある企業もありますが、個人事業主さんとか、中小の事業所が多数存在している中で、前戦略では支援について書かせていただいています。今後、コロナの影響を受けている中では、事業を存続させていくところでの視点を持って、安心して働ける環境の部分は、前戦略の方向性の部分を踏襲しながら、力を入れていかなければいけないと考えています。

委員長・・・ 前回の目標から変わっているのは、環境を整えるという言葉になったのは大きいと思います。前は、雇用を創出すると言っていましたが、環境を整えるということで、「環境」という言葉は色々なとらえ方があります、制度を作って企業にインセンティブがあるような行動をとってもらうこともあります。

先程、説明があったように、単純に企業とのコミュニケーションを図るだけでも、他の事例でもありますが、まったく市との交流が無い企業は、移転する時は、パッと移転してしまふ。少なくとも、市とつながりがあれば、もし移転するにも、事前に話をしたり、交渉の余地が生まれるわけで、それは、普段からのコミュニケーションがあるからであって、これもある意味、環境づくりになるんですね。

もしかしたら、市民の雇用という視点から切り込むこともありますし、工場が無くならないようにするということもありますし、多様な環境をつくることで、誰もが安心して働ける環境をつくるにつながるのかなと思います。

委員長・・・ 今日、全てを決めるわけではありませんので、皆さんからの純粋に意見を、視点をいただければと思いますので、また、気づいた点がありましたら言っていただければと思いますので、次に行きたいと思います。

委員長・・・ 基本目標2の「昭島へ新しいひとの流れをつくる」の部分で、ここは前回の目標と変わっていないところで、前も申し上げましたが、昭島に住んでいる方は、住みやすいところとおっしゃられるんですが、どうやったら外の人に魅力を伝え

て来てもらうか、そして、来てもらうだけでなく住んでみたいと思ってもらうにはどうすれば良いか、この目標の大きな方向性になります。

委員長・・・ 水というのは、強みになりますか。

富名委員・・・ ずっと、前の施策から「水」というキーワードが、決して悪いことではないと思いますが、そこまで水にこだわるのは、水の他に無いからとも感じてしまいます。

水は良いのですが、このキーワードだけで後5年、10年やっていけるのか。

樽松委員・・・ 昭島の水はおいしいというが、市民以外の人はどこで飲むのか、昭島の水がおいしいと言うのであれば、どこかで飲めるように、昭島駅北口の観光案内所で水を出すとかしていかないと、何かPRしていかないと、おいしいと言ってるだけで終わりにになってしまう気がします。

事務局・・・ 昭島の深層地下水100%、この深層地下水という部分は、東京都では他に無いというところで、昭島市にとっては、昔からの宝として大事にしてきた資源であると、この宝は環境との共生のまちづくりの理念の中でも位置付けて、大切に次世代に引き継いでいまいしょうと、ここは外せないポイントと考えております。

しかしながら、これがセールスポイントになるかという点、ペットボトル水は作っているのですが、イベントで配ってはいますが、売ることが出来ないのがジレンマとなっているところがあります。

また、市外から訪れた方が、昭島の水を飲む機会が無いということで、こちらは、予てから課題となっていて、今年度、予算化しておりまして、拝島駅から東中神駅、駅によって、北側南側と違いますが駅前に給水スポットを設置し、水道水を飲めるような形で、訪れた人に飲んでいただけるようにPRをやりたいと思っています。

委員長・・・ 今の話には、一つに水が昭島の魅力にふさわしいか、ふさわしいのであれば、どう伝えればよいのか。常に飲めるようにするとか、どうメッセージを発していくか、その辺を踏まえて、水に特化するというわけではなく、それ以外で、市外の人に昭島市の魅力が伝えられるのであれば、アイデアとして言っていただければと思いますし、水であれば水をどのようにPRしていくか、環境との共生とか、飲む以外にどうやって感じてもらうのか。

富名委員・・・ 吹き出しのコメントにある「あきしまの水を使って、商売をしたい！」というのは、加工すれば売れるという意味ですか。

事務局・・・ ペットボトル水として売るのはではなく、例えば昭島の深層地下水でホテルのタオルを洗っている会社では、昭島の水を使うと仕上がり具合が違うということで定着をしている企業もあります。昭島の水を活用して、工場等で使用しているところもありますので、水を直接、売り物にするのではなく水でつながった仕事が行われているという意味合いがあります。

富名委員・・・水をジュースなどにして売るのは出来ないけど、洗ったりするのに使うのは大丈夫ということなのですか。

委員長・・・水道水として売ることが出来ないということで、工場で水道水として使うと、他と違うという意味ですね。

事務局・・・昭島の水だからということで、昭島市に定着していただいているのは事実です。

富名委員・・・水が売れない理由はあるのですか。

事務局・・・水道事業で利益を出す販売は出来ないことになっています。

委員長・・・ペットボトルの水でおいしいと言うのは、なかなか難しいと思います。それよりも、先程おっしゃられたような商売と生活に密着したところで水が使われて、他とは違うという発想の方が、他とも競合しなくて良いのではと思います。

齋藤委員・・・コロナの前までは、来訪者を増やして、交流人口を増やして、来てくれる人を増やして、定住人口を増やそうという流れでしたが、コロナ禍の状態で、いつまで続くかわからない状況で、前のように戻る前提で方向性を決めてしまうと、この状況が続いていたら、本末転倒になってしまうので、少し現状を踏まえた方向性を入れておいた方が良いのではと思います。

「新しいひとの流れをつくる」なので、外から来る人を増やすだけではなく、中から出ていく人を防ぐところもあって良いのではと、特に若い人が都心に出ていくのを防ぐのを、ここに入れておけば良いのではと思いました。

水の事も、市民の人はどれだけ水が良いものと思っているかも重要だと思っていて、生まれてからずっと使っていたら良いか悪いかはわからないですね。そこら辺を子どもたちの教育の現場とかで教えて、外に行ったときに気づいて、本人が良さを発信するような、市民が発信する動きをつくると、今は、SNSの時代でするので良いのではないかと感じました。

佐藤委員・・・昨年、行政の方とやらせていただきましたが、市のキャラクターと昭島駅南口商店街が作ったダンスを子どもたちや市の方と踊って、「昭島の水はおいしいんだよ。」と発信しています。

齋藤委員・・・郷土愛のようなものを育んで、シビックプライドが高まってくると、ここで言うひとの流れとは違うかもしれませんが、昭島に居つく、定住人口になるというところでは良いのかなと思います。

委員長・・・シビックプライドのようなものは、基本目標4につながってくところもあって、目標2と目標4は裏表の関係のようなものがあるのかと、どちらに力点を置くなどは、基本目標4つが並列に並ぶよりは、少しこの目標を重点的になどとの考えもあると思いますし、コロナ禍が続くのであれば、単純に人を集めるのは、不安も増えますね。

齋藤委員・・・ 「良いところ」を住んでいる人が発信してもらうと、興味がある人が調べて、最近は何か食べに行くにも、美味しそうなものをインスタから調べていく流れがありますので、ここの「ひとの流れをつくる」で出来ればよいのではないのでしょうか。

佐藤委員・・・ #（ハッシュタグ）昭島とかは、やってもらおうようにしています。若い子に SNS で発信してもらおうと、名刺サイズのレアなカードがもらえるなど出来たら良いねと話をしていたりしています。

石川委員・・・ 昭島の水でビールを造っている方がいて、水だけだと生活の中で使っていて、ほぼ無料の物ですが、その水を使って何かが出来たというのが好評で、昭島は水がおいしいというだけでなく、それを食育につなげて、給食も昭島で採れた地産地消、食育に力を入れて、目標の3になってしまうかもしれませんが、昭島は食を大切にしていることと、水をつなげると良いのかなと思います。

樽松委員・・・ 基本目標2の「昭島へ新しいひとの流れをつくる」は、ただ来てもらうのではなく、昭島の魅力を知ってもらうことだと思います。そうすると、公民館や文化団体が行っている講演会なども、市民や在勤者対象に限定せずに来てもらって、昭島を知ってもらうのも良いのではないかと思います。

事務局・・・ 昭島市で事業を行う場合は、市民の方の税金が財源となって、事業展開をしているので、市民向けの事業が多いのは仕方がないことだと思います。

ただ、事業内容によっては外から人を呼び込む事業展開を行っており、現行の総合戦略の中でも、まちコンの開催で商店街で出会っていただいて、商工会のご協力をいただきながら、こちらは昭島市民に限定せず、かなり多くの方に集まっていたら成功裏に終わったイベントもあります。その後も、福生市との2市連携事業の中で、同等の事業を進めています。

事業ごとで、市民を対象とするべきものと、市外から人を呼び込むものが出てくると思います。大きなイベントでは、くじら祭は間近で花火を見れるのが売りになっていて、夢花火の時は、市外から多く、昭島に訪れていただいています。

どのような事業に視点を置くかは、これから考えなければいけないと思います。

委員長・・・ 目標の2、新しいひとの流れをつくるは、観光地にしようとしている訳ではなく、総合戦略の目的としては、人口減少に対応しようと言うことで、人口が減らないように、増えるようにすることが目標ですから、暮らしたいと思ってもらわなければいけないところがありますので、そうすると、昭島に来て、昭島だとかいう生活が出来ることが感じられないと、なかなか住みたいと思えないですよ。それが、講座だったりするのかもしれませんが、こういう講座が受けられるということが魅力になるのであれば、市民だけではなく誰でも受けられるようにした方が、昭島らしさを感じてもらえるかもしれませんし、水の問題も、単純に水を飲んでもらうのではなく、生活の中にある水を体験してもらおう、もっと言えば、それを市民の人が理解して発信してくれれば、自然と伝わる。皆さんの意見を聞いていると、そういう流れなのかなと思いました。

そうすると、基本目標2と4は、つながっていてどのように力を入れていくかは、ものによるかもしれません。

委員長・・・ それでは、基本目標3も見えていきましょう。「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」というところで、前回の戦略ですと若い世代と入っていたのが外れて、限定しない形になっています。このあたりの基本的方向については、いかがですか。

石川委員・・・ 保育園に関して言えば、入りやすくなった実感がある方が多いようです。

杉並で子育て応援券を行っていますが、昭島は子育て応援をしている個人事業主が多くいても、表に出る機会が少なく、ベビーマッサージなども市が無料で行っていて、ベビーマッサージができる人はたくさんいても、事業として出来ないことなどがあって、杉並の子育て応援券だと、親自身も将来的にはサービスの提供者になるのが出来るのが売りになっていて、みんなが安心して子育てをしたいのはもちろんですが、それ以上に、このまちで子育てをしたい、このまちの一員であることを実感して、サービスを受けるだけでなく、自分自身も何かをしたいと、それを出来るまちになってもらいたいと思います。

委員長・・・ 基本目標1の話と似ていて、環境を整える、行政がどこまで整えるのか、民間でできることは民間でやった方が良くもありますし、あくまでも行政はその基盤づくりを、その基盤は何かとなりますが、受け手になるだけでなく、送り手になることも非常に重要であるご意見でしたが、他にいかがでしょうか。

齋藤委員・・・ 前は、若い世代と入っていたので、小学校に上がるまでの子育てのイメージがありましたが、若い世代が抜けて、小学校以上も考えてよければ、教育のところを、教育を受けられる平等性などが、子育てしやすいまちにつながってくるのかなと思って、緊急事態宣言で学校が休校になって、その時に教育を受けられない時に、リモートでやろうとしても、子どもたちの家庭にその環境が無いということで、公立では難しかった。なので、そういったことも出来るまちであれば、この子育ての希望をかなえるところになるのかなと感じました。

事務局・・・ 今般の、臨時休校が長引き、教育が停滞してしまったことは、全国的に生じたところではありますが、そうした課題を踏まえ、国としての施策展開もしておりますが、1人1台のパソコン環境を整えて、今後、臨時休校などになった場合は、家庭に持ち帰り、オンラインなりの教育環境が出来るような形で、早急に端末等の環境整備を進めています。本市におきましては、今年度中の配備に向けて契約等を進めております。

また、家庭にインターネット環境のない場合も、機械を貸出し、利用できるように準備を進めています。

委員長・・・ こういう状況になってしまったので、ICTの環境は前提となりつつあります。今回でいうと、4の安心して暮らせるというところもそうですし、リモートワークというところでは、基本目標1ともつながってくるので、私が最初に質問させていただいた横断的目標は何ですかというところは、そういったところにICTの話を入れていくなどの視点が必要ではないかと思ひまして、「新しい時代の流れを力にする」が一番わかりづらいところで、ここにICT等は入れておいた方が良くないかなと思います。

事務局・・・ 横断的目標は、国と合わせている部分と昭島らしさで水の部分を加えています
が、わかりづらい点もあるのかなと思います。昭島市としては「新しい時代の流れ」とは、
今般のコロナの関係もそうですが、こういった危機の部分が強みに変えて、1人1台の
パソコン環境もそうですし、今後の働き方ですとか、新しい生活様式への転換の部分
でも、チャンスに変えて進んでいこうという思いもあります。委員長がおっしゃれたと
おり、わかりづらい点がありますので、国は国として、昭島は昭島の視点をもって位置
付けても良いのかなと思います。この書き込みの部分もご意見をいただければ、事務局
で今後、修正してお示しできればと思います。

委員長・・・ 今日、話をされていて皆さん、この4つの目標が裏側でつながっている
ような感じを受けたのではと思いますが、そこに、横断的目標という言葉が、裏側で
つながっている根幹の部分とか、昭島らしさを表す部分だと思うので、ここを事務局
が言っているようにオリジナルにできるかが、総合戦略を昭島らしくする一つの
大きな視点なのかなと思います。

富名委員・・・ 4つの目標を踏襲しながらとの流れがありますが、すごく魅力のある
まちづくりをしていくという観点で、例えば、目標を1と3に絞る発想はありますでし
ょうか。1と3が出来れば、人はたくさん来ると思いますが。
目標が4つあって、分散して力を入れていかなければいけないのなら、絞ること
が可能なのかお伺いしたい。

事務局・・・ この4つの目標においては、1つの目標に力を入れるだけで人が来て
くれるのか、住み続けてくれるのか、子育てしやすいのか、働きやすいのか、これ
までの戦略でもそうですが、基本目標4の部分が、一定の利便性の高いまちと言いま
すか、都市基盤の整備と水と緑の調和した住宅都市としてのまちづくりを進めて来
て、そこに人が住み続ける基盤的部分を大切にしながら、人と人とのつながりを大
切に、目標の1から3を基盤の上で展開していくことで、人を呼び込んで、住み
続けてもらって、生業を続けてもらう、そして、子どもを産んで、育ててとイメ
ージしていますので、確かに委員が言われるとおり、どこかに特化してというの
も良いのですが、昭島らしさがどこに出てくるのかというところもありますので、
そのあたりを視점에置きながら、ご意見をいただければと思います。

富名委員・・・ 私の感覚として、戦略としては絞って、定型的なパターン化されて
いるものはベースとしてあって、特別に掲げなくてもやっていけないのではないの
かなと思って、4つを2つに絞っても良いのかなと思います。

委員長・・・ 前の総合戦略のところで、4つの目標が並列に並んでいるわけではなく、
人口が増えるとか、幸せな生活になるとかの目標に向かって、どういう経路で物
事が動いていくのか、ある意味、プロセスの部分があって、先程、説明があったと
おり、目標4が基盤となって、おそらく、構図を描いたうえで具体的な施策や力
を入れるべき方向性は、ある程度、絞り込んだ方が良いと思います。

前の戦略の時も、総合戦略をつくって、そのためだけに施策をつくることは、
ほとんどなくて、今までやっているものを、この戦略に位置付けてより特徴を出
していくことに、この戦略は使われていますので、私たちが考えなければいけな

いことは、大きな構図はあっても、どこに力を込めれば良いのか、皆さんからご意見をいただいて、市も限られた予算の中でやらなければいけないので、少なくとも総合戦略は、総合基本計画よりも、具体的、絞り込んだ形の計画でないと意味がないので、今日、議論したとおり、水にしても、こういう方法があるとか、こことここがつながって、こういう結果になるとか、皆さんの方向性を示していただけると、より絞り込まれたものになるかなと思います。

現状は、この4つの目標が、どういうつながりで、どういう風になると、どのような結果になるかを皆さんと考えながら、要素として加えていくのが良いのかなと思います。

水野委員・・・それぞれの目標の基本的方向のところに、必ず共通して「楽しい」という言葉を使われているのですが、この「楽しい」を使われるのに意識されていることはあるのでしょうか。

事務局・・・それぞれのところに「楽しい」を記載させていただいております。現行の市政を進めていくにあたって、コロナの状況もそうですが、厳しい対応に苦慮する中で、そのような中であっても、大変なところはしっかりと対応していきながら、これからの時代に、まちづくりをしていく中で、「楽しい」という視点をしっかり踏まえて、市政運営に努めていかなければいけないということで、最近楽しいまちをキーワードにして、取り組みを進めているところであります。

勝見委員・・・基本目標4のキーワードに、多様性と意外性がありますが、意外性とは、どのようなことを想定されていますか。

事務局・・・具体的に、このようなものと説明するのは難しいところなのですが、今は、色々な価値観がある中で、世間一般的に言うセオリーだけでなく、楽しいと思ってもらえるようにするには、意外性のあるものも必要ではないかというところで、意外性という書きぶりをしています。

委員長・・・子どもたちが昭島の良さを知って、ずっと住み続けたいと思う、それは何がそうさせるのか、そこにヒントがあるように思います。それをどうやって他の人に感じてもらうのか、そこは外に向かって何かをするよりも、内に向かって何かをする方が効果があるのかもしれないというのも、今日の発見なのかなと思います。

この後、4つの目標を踏まえて、今回からできた横断的目標と、この構造はこのままいくと思いますが、皆さんに考えていただきたいのは、それぞれの目標がどのようにつながっているのか、是非、意識して、この後の具体的な施策とか、基本的方向のところを考えていただくのが大事だと思います。

委員長・・・何か、気付いた点がありましたら、事務局にご連絡をいただいて、次第の4その他、1つ目人口ビジョンについて事務局からお願いします。

4 その他

(1) 人口ビジョンについて

事務局・・・ 人口ビジョンにつきましては、8月の第1回本策定検討委員会でご説明をさせていただいたところです。

説明の中で、今後数値を置き換える旨お知らせをいたしましたが、現在準備を進めているところです。具体的に申し上げますと、昭島市の強みでもある「転入超過」を過小評価していた部分があるため、この辺りを中心に全体的に精査していきたいと思っております。それに伴って、最新の数値として、令和2年10月1日現在の人口を使用すること、同様に、立川基地跡地の開発推計人口も10月1日現在の推計値に置き換えて、作成をしていく予定です。

現在、仮の数値でテストを行っておりますが、現在の人口減少カーブよりは多少緩やかになるものと見込まれています。ただ、いずれにしましても、立川基地跡地の開発が落ち着いた後は、自然減が社会増を上回ること、総人口が減少に転じていくとともに、年少人口、生産年齢人口は減少を続け、高齢者人口が増加していくという傾向に変わりはありません。

今後、精査をして、集計ができ次第、本委員会にもお示しし、ご説明をさせていただければと思っております。

(2) 第3回昭島市総合戦略策定検討委員会について

委員長・・・ 第3回の委員会について、事務局からお願いします。

事務局・・・ 次回、第3回の委員会につきましては、10月29日（木）18時30分から、同じく庁議室で開催させていただきたいと思います。開催通知につきましては、日程が近くなりましたら送付をさせていただきます。

5 閉会

委員長・・・ 以上をもって、第2回総合戦略策定検討委員会を終了します。